



# よこ館だより

Est.1912

発行：至誠学舎立川 編集：法人事務局



## 理事長閑話 うめ草 ③⑩

～愚者と賢者～

「長寿企業の智慧」、番組の DVD で法人の歴史と理念についてご覧いただけただけでしょうか。その冒頭に「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」とコンセプトメッセージが流れます。世界的に見て特異な日本の「長寿な企業」の歴史に学ぶことで、日本的な経営論が構築されるのではないかという情報会社「チエノワ」の想いがそこに伺われます。

現場人間の集まりである私たちは、経験・OJT から実践の在り方を学ぶことの大切さを知っています。それがなぜ「愚者」であるのか、私は自問自答を繰り返しました。何人かの方とも議論をしてみました。その結果あることに思い当たりました。その結論を言葉で言えば 経験を歴史にする ということです。ここで言う歴史とは作り上げてきた成果、実績ということです。長寿企業の智慧を歴史にしていく、その営みが、事業を長寿企業にしているのではないのでしょうか。今風に言えば現状に納得・満足しないで、継続的なイノベーションにより、経験から歴史を作っていくということです。

もう一つの認識です。個人的な体験から得られる機序（現象と変化のメカニズム）が経験といわれるものではないか。

話は飛びますが、常に私の心にある拘りです。私たちは先の戦争に対してきわめて被害意識がその根底にあるように思います。多くの戦死者、シベリヤ抑留、満州開拓団の悲劇、都市部での無差別焼夷弾攻撃、そして人類史上初めての原爆投下。

1952 年に建てられた有名な広島原爆慰霊碑には「～過ちは繰り返させぬから」と刻まれています。批判があります。原爆を投下したのはアメリカだ。故に過ちをしたのは彼らであり、被害を蒙ったわれわれではないと。しかし、この撰文は私たちにとっての悲惨な経験を人類の在り様として「客観化、歴史化」した碑文なのです。それが経験を歴史に昇華するということだと思えます。

さて、いま私たちは至誠学舎立川の歴史に思いを馳せ、賢者になる道を考えるのです。

理事長 橋本正明

## 事業本部長メッセージ

11 月は「児童虐待防止推進月間」でした。社会全体で取り組むべき問題として取り上げられ、児童相談所では児童虐待防止に向けたさまざまな役割が課せられています。

成育しせい保育園の分園として平成 22 度にスタートした梅丘の子育てステーションは、小田急との契約期間満了をひかえ「区立総合福祉センター」後に移転し 区立の新たな児童相談所と併設し、相互に連携して運営する複合施設として新設の分園ともに整備されることになりました。

平成 32 年度開設に向け 11 月 14 日には適格性審査のヒヤリングがあり、17 日には選定結果の通知を受けました。ヒヤリング当日、外部審査員からの熱心な質問からは、他機関との連携や協働が求められる新たな機能を持つ世田谷区の子育て支援充実への期待が感じられました。児童相談所との連携については、保育事業本部と児童事業本部同士体制を整えてそれぞれの専門性を生かし、適切な対応が求められています。

さらに現在の梅ヶ丘駅高架下施設は、世田谷区の子育て支援状況を考慮して当面の間、梅丘分園の定員拡大を図りながら「本園化」に向けた調整が進んでいます。今後ますます多様な保育サービスへの対応や、子育て支援充実に向けた新たな取り組みに期待が高まっており、地域の拠点をめざしてまいります。

保育事業本部長 稲永勝行

&lt; 世田谷区立総合福祉センター &gt;



## 事業本部情報

### ♥児童事業本部♥

寒い冬と共にサンタクロースがやってきます。さて、子ども達の成長を祝う七五三では可愛い和服姿で子どもひとり一人の成長をお祝いしました。11月には児童虐待防止推進月間事業として、立川市社会福祉協議会のご協力を得て「0歳～の親子コンサート」を実施し、多くの地域の皆様方のご参加をいただき無事に目的を達成することができました。ご協力ご支援に感謝申し上げます。

毎年、恒例行事となりましたテレビ朝日福祉文化事業団主催の子どもキラット！楽演祭では創作舞踊と合唱の部で参加をしました。秦野先生、菊田先生、印牧先生のご指導による日頃の成果を発表することが出来ました。子ども達も、伸び伸びと舞台の上で表現し、楽しいひと時となりました。皆様からのご声援ありがとうございました。さて、障害福祉事業としてのまことくらぶではグループホーム計画案づくりを進めております。また、至誠大地の家のグループホームはオープン間近となりました。今年もあとひと月となります。子ども達の健康と安全な生活を優先し、新たな年が子ども達にとって飛躍できるよう私たち職員も更なる努力と研鑽を重ね頑張っています。(櫻井 壽)

### ♥保育事業本部♥

今般、保育園、幼稚園、幼保連携型認定子ども園のそれぞれの実践指針となる(保育園では保育所保育指針)の基本文章が改定され、平成30年より施行されます。今年では全体周知の年として位置づけられ各地で研修がスタートしています。

今回の改定の特徴は「保育所」が初めて「幼児教育機関」として認められ明記されました。3歳児以上の幼児期の施設は教育を「幼児教育」と呼び、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を具体化して、保育・教育に取り組むこと、保育・教育の基本原則は「環境を通じて行う」ということ、三つの柱からなる「資質・能力」を育むこと、小学校との接続をより円滑にすることです。

保育事業本部では11月11日に合同研修会を開催しました。改定の全体像、構成、特徴を共有し保育実践において新たな一歩を踏み出すこと、保育の一体性を目的とし正職員約200名と共に理解を深めました。また、指針は改定されますが、保育事業本部で大切にしている、お子さま一人ひとりと受容的・応答的に関わり、優しく、温かく、丁寧に「子ども主体の保育」をこれからも大切にすることを確認する一日となりました。(長谷川育代)

### ♥高齢事業本部至誠ホーム♥

12月に入りました。至誠ホームでは恒例の「職員忘年会」を開催します。200名を超える規模で行うので「大忘年会」というものだと思っていました。立川市内の大きめなホテルで開催しますが一年おきに会場のホテルも変わります。参加費は毎月の互助会費が充てられますが、開催の時間帯の勤務の方は出席できないので記念品をお渡しします。(出席者は2,000円会費支払い)

ブロックが違えば顔を知らない方もこの機会に分かり合えるみたいです。私などは入職書類で写真を見る機会があるので少しは覚えていますが、ホーム長や他ブロックの施設長は知りません。皆さんの方が「風」や「そよ風」などで知っていて、あれが事務局長かとしげしげと見ておられます。

この会の運営は厚生委員会のメンバーが担当し何回も打ち合わせします。手の込んだイベントです。一生懸命にやります。年末の楽しみです。

しかしながら、秋のバザーの時も感じましたが、こういった準備の集まりは相当な労力がかかります。合理性や効率を考えるとすれば、イベント自体がつまらなくなってしまうこともあります。しかし、「労力=コスト(給与)」と見れば少し見直してもいいのではと思っています。(金井裕一)

## 本部事務局だより

12月と言えば、忘年会。忘年会の起源は、はっきりとは判っていませんが、室町時代の記録に「としわすれで酒を飲んで乱舞している」とあるそうですからずいぶん昔からあったようです。江戸時代には一年の憂さを晴らすストレス発散行事として定着していたようで、ストレスの多いのは現代社会だけではなかったようです。

ストレス学説の提唱者ハンス・セリエ博士は、「ストレス」とは心身の「エネルギーの消耗」であると考えました。ストレスの持続でエネルギーが低下している場合、まずは休んでエネルギーを補給しましょう。エネルギーが減っては、何もできません。また、ストレスに対抗するためエネルギーがどこかに偏って使われていると、バランスが悪くなって過剰にエネルギーを消耗します。バランスをとるためには趣味や運動といった別のことで、気分転換をはかり、偏ったエネルギーの使い方のバランスを取るといったやり方があります。いずれが良いかは、ご自身でストレスチェックをして、専門家に相談してみましょう。【外部無料相談ダイヤル0120-053-533】(野島忠幸)

<編集後>師走となりました。1年のうちで、一番時間が惜しいと感じる月ですね。日本語の「時は金なり」とは、元々はアメリカのベンジャミン・フランクリンの言葉だそうです。(原文 Remember that time is money)